



## 第12号誌

2022年 [制作・発行]

- 行田市在宅医療・介護連携推進協議会
- 行田市高齢者福祉課地域包括ケア担当

TEL.048-556-1111  
(内線 338・278)

**ご自由にお取り下さい**

行田人(ぎょうだびと)は、行田市の「医療と介護の連携」を推進・紹介し、市民のみなさんの生活をサポートする広報誌です。

## 在宅医療・介護連携推進事業

医療と介護が連携して、地域住民の療養や生活を支援する取り組みを行っています。

## 30年後(2050年)のふら平とぜに子

第10弾!  
**ふら平さん  
サポート大作戦!**

行田市在住のふら平さん一家の30年後。だいぶ体が不自由になってきているふら平さんを支えるために、医療・介護の専門職がどのように関わっていくのかをご紹介します。

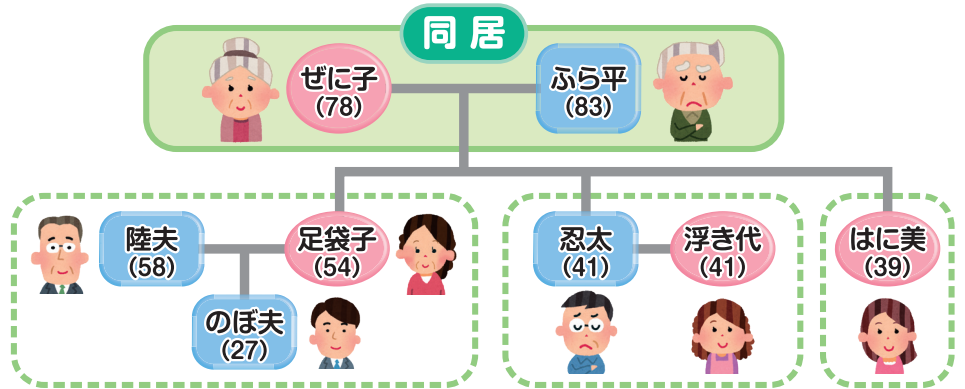


ぜに子  
(78)

体の問題はない。軽い物忘れあり。大きな病気はなく、ふら平の身の回りの世話をしている。60才から始めたお花の教室を自宅で開いている。

脳梗塞の後遺症、肺気腫。78才の時に軽い脳梗塞を患い、進行性の肺がんもある。肺の病気のため、動くとき息が切れ、寝たり起きたり。「わしゃ家で死にたい」と言っている。

ふら平  
(83)



最近もの忘れが多くなってきたぜに子さん。病院を受診し検査した結果、「**アルツハイマー型認知症**」であることが分かりました。長女・足袋子と長男・忍太は、「アルツハイマー型認知症」の症状や治療、今後どのように進行していくかなど、病気について詳しく医師に聞いてみました。



**アルツハイマー型認知症**ってこれからどうなるのかしら…?

長女 足袋子



長男 忍太

認知症って、治療方法はあるのかな…?

ぜに子さん診断された「アルツハイマー型認知症」とは、どのような病気なのでしょうか？ 次のページでご紹介します。



# 「アルツハイマー型認知症」

## 古い文化

人格を否定する恐ろしい病気  
「問題行動」

## 新しい文化

障がいや個性とみる。ケアによって改善する。  
ニーズを伝えるコミュニケーションととらえる。

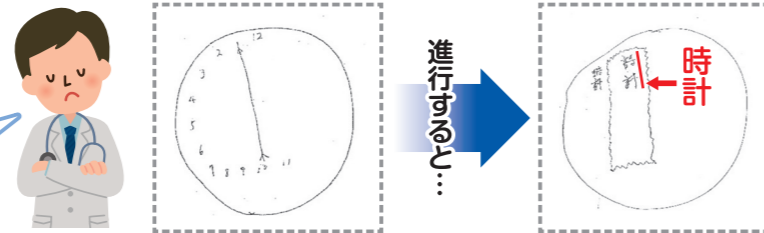
## 大切なのは…

『早期に適切なケアを受けることにより改善する』

ということ

症 状	記憶障害	同じことを何度もたずねる、約束事を忘れる、同じものを買込む
	見当識の障害(時間・場所・人物)	夜に出かける、外出先で迷う、家族が分からなくなる
	思考力や判断力の障害	状況に応じた判断ができない、作業を最後まで行うことができない
	実行機能の障害	日常の作業や料理など計画を立てて実行する作業が困難になる

例えば、時計描画テスト(10時10分の時計を描いてもらう)では、次第に文字盤が正確に描けなくなり、進行例は「時計」という漢字を記入しています。



## 治療

### 物忘れ外来／認知症予防リハビリテーション

＊まだ認知症になっていないと思うけれど心配…

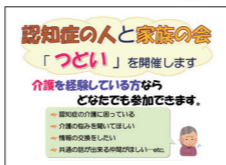
→『もの忘れ検診』を受けましょう。

＊家庭にいて適切な対応を知りたい!

→『認知症カフェ』に行ってみましょう。

＊対応に困っている…

→『認知症の人と家族の会「つどい」』に参加しましょう。



認知症の介護者の半数にうつ症状が認められます。  
支援が必要なのは「あなた」です!

ひとりで抱え込まずにお気軽に! 専門職が支援します。

相談窓 在宅医療介護連携支援センター (☎048-553-2060)  
または お住まいの地域の地域包括支援センターへご相談ください。

## 認知症の困りごと・心配ごとに対応

# 認知症地域支援推進員をご存じですか?



### ▶ 認知症地域支援推進員ってどんな人?

- 地域の皆さんや医療・介護の専門職など、さまざまな機関と連携・協力しながら、本人・家族の相談対応や認知症の普及啓発などを行い、認知症になっても安心なまちづくりに取り組んでいる専門職です。
- 医療・介護・福祉などの資格を持ち、市内5か所の地域包括支援センターにいます。

### ▶ どんなことをしているの?



認知症への偏見をなくし、正しく知ってもらうために  
認知症の普及・啓発

様々な機関と連携を図り、  
本人・家族への相談支援



認知症の方やそのご家族に  
やさしいまちづくりを目指して



仲間とともに、認知症にやさしいまちづくりを進めるために  
認知症に関わる人・機関とのネットワークづくり



認知症の状態に応じた症状や対応、必要な制度等を掲載した冊子  
認知症ケアパスなどの作成・普及

認知症の方やご家族など誰もが安心して過ごせる場をつくるために  
認知症カフェの活動支援



認知症に関する医療・介護などの相談は、

高齢者の総合相談窓口 行田市地域包括支援センターにご相談ください。

相談先はお住まいの地域により異なります。



### 行田市地域包括支援センター 担当地域表

#### 機能強化型地域包括支援センター 緑風苑

[住所] 須加1563 [電話] 557-3611

担当地区/須加、北河原、長野、佐間の一部(一旭、二旭、向町、緑町)

#### 地域包括支援センター まきば園

[住所] 白川戸275 [電話] 550-1777

担当地区/星河、荒木、南河原

#### 地域包括支援センター 壮幸会

[住所] 下忍1162-14 [電話] 552-1123

担当地区/太井、下忍、持田の一部(持田五丁目、持田砂原、菊野台、持田西、三井砂原、三持田西部、前谷、棚田三丁目)

#### 地域包括支援センター ふあみいゆ

[住所] 下須戸65-1 [電話] 558-0088

担当地区/埼玉、太田、佐間の一部(大町、一佐間、二佐間、神明、三間)

#### 地域包括支援センター ほんまる

[住所] 本丸18-3 [電話] 578-7761

担当地区/忍、行田、星宮、持田の一部(菅谷、一持田北、一持田南、県営持田団地、持田長町、二持田第一、二持田第二、二持田蔵場、三持田大宮口、三持田東部、駒形、西駒形)



## 医療と介護の終活講座



『医療と介護の終活講座』は、ACP普及促進のために各エリアの公民館で開催されている人気の講座です。医師による講座や動画の視聴、ゲーム感覚で自分が大切にしていることに気づくことが出来る「もしばな（もしものための話し合い）ゲーム」の体験、自分の気持ちを書き留めておける「わたしの人生ファイル」の書き方説明等、ACPの実践に役立つ内容となっております。

※ ACPとは「アドバンス・ケア・プランニング」の頭文字をとったもので、もしものときのために、自らが大切にしていることや希望する人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考えておくことです。



！！ いつまでも健康で過ごすために !!

## 自宅で簡単にできる体操を始めませんか？

### 膝痛予防体操

#### 下肢の水平運動（右・左）

《目的》下肢筋群の強化

→ 下肢を前方に伸ばし、水平移動をゆっくり行います。  
膝頭が上を向いたまま行うようにします。

新型コロナウイルスが年末から新規患者数が減少したのも束の間、年明けから新種のオミクロン株の大流行により、より一層不要不急の外出を控えなくてはいけなくなりました。歩く機会が減少することで出る弊害は主に膝痛だと思います。今回は第3弾として自宅で簡単に行えるもう一つの膝痛予防体操を紹介させていただきます。重りなどを使用せずに、自分の手や足を使って無理なく簡単にどこでも行えますので、皆さんやってみてください。痛みがすでにある方は専門の医療機関への受診をお勧めいたします。

行田総合病院 リハビリテーション科 寒河江(さがえ)



①『1』で膝を伸ばす



②『2』で外側に開く



③『3』で内側に戻す



④『4』で元の姿勢に

注意点・  
ポイント

両方の足で  
行います。



## 研修報告

## ACP研修会

令和3年12月22日に、総合福祉会館「やすらぎの里」にて、「ACP研修会」が開催されました。感染対策を何重にも講じ、コロナ禍の落ち着いた隙間を見計らって、久しぶりに会場に集まって開催され、医療・介護系の15事業所から約30名の方が参加し、みんなでワイワイと楽しく勉強しました。

まずは行田市医師会 川島会長代理から『ACPでつなぐもの』と題してのレクチャー、その後『もしバナゲーム』を実際に体験して頂きました。

#### 【参加者アンケートより】

- 死ぬことや死生観をここまで考えたことがなかった。オレンジカフェなど現場に活かしていきたい。
- 職場の環境・職種によって大切にしていることが異なる。  
⇒日常・習慣によって価値観が培われることに気付いた。
- 自分ではとても選ぶことのないカードを選ぶ人がいて興味深かった。  
⇒今更ながら様々な価値観がある事に気づいた。

縁起でもない話を何度でも…今回の研修会での体験をそれぞれの事業所に持ち帰り、利用者様・入所者様の支援に活かして頂ければと思います。



行田市在宅医療・介護連携支援センター

「行田人（ぎょうたびと）」は、市内医療機関、歯科医院、薬局、介護事業所、市役所窓口等で配布しております。  
ご希望の方は各機関の窓口にてお申し出ください。

